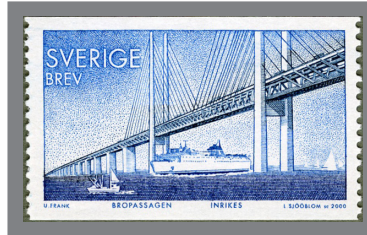


オーレスン橋

Bridges of the World

デンマーク・コペンハーゲン／スウェーデン・マルメ



スウェーデン・2000年発行

オーレスン橋とは、デンマークのコペンハーゲンとスウェーデンのマルメを結ぶ海峡連絡道のことを指します。この道路の総延長はおよそ16kmで、橋、トンネルとそれをつなぐ人工島から成っています。公式名はオーレスンブロンとされ、表記は両国語を合成してつくられました。ブロンは橋を意味していますので、「橋」と訳されますが、英語の表記はオーレスンリンクとなっています。そしてこの道路を管理運営している法人は、両国政府が作っている道路管理団体が出資して作ったオーレスン橋公社で、有料道路として運営されています。

道路と鉄道の併用構造になっていて、西側のコペンハーゲン空港を過ぎると長さ約4kmの海底トンネルに入り、ベベル島と名付けられた長さ約4kmの人工島で地上に出て、長さ7850mの海上橋へとつながっています。

オーレスン海峡はバルト海から北海へとつながる海峡の一つで、かつては通行課税権を巡る争奪戦の舞台となりました。19世紀後半になると、フェリーに替わる海峡横断施設の検討が始まりましたが、両国政府が合意に達

したのは、1991年のことです。現場工事は1995年に始まり、正式に開通したのは2000年7月のことです。

連絡橋の中央部には、中央スパン490mの斜張橋が採用されています。高さ204mのコンクリート製の塔が鋼トラス桁を支えており、桁下の高さは57mが確保されています。アプローチ部もトラス桁になっていて、上段に4車線の自動車道、下段に2線の鉄道を載せた2段構造になっています。鉄道は両国の国鉄の連携によって運営されていますが、周波数や信号システムの違いなど、克服すべき課題が多くあったようです。

オーレスン橋は、デンマーク側では新空港に直結され、スウェーデン側では南部の主要都市マルメを結んでおり、海峡を挟んだオーレスン地域を一体化する動きが活発になっています。1日あたり2万台に達する自動車と10万ほどの人の移動の3分の2を担う鉄道によって、人口約370万人のこの地域では、スウェーデン側への買い物や移住、デンマーク側への通勤というライフスタイルの変化を生み出しつつあるようです。

